

Lancet 創刊者 Thomas Wakley : 生誕と終焉の地

山崎茂明

愛知淑徳大学文学部図書館情報学科

2004年9月、総合医学雑誌 Lancet の創刊者である Thomas Wakley(1795-1862)の生地と、彼の墓地、そしてロンドンを中心に他の関連事跡を訪ねた。Lancet の特色は、学会、医師会、大学など既存のエスタブリッシュメントとの結び付きを持たず、独立した医学ジャーナリズムとして刊行されてきたことである。批判精神こそ Lancet の特徴であり、創刊者 Wakley は社会改良家として、医療制度、医学教育、公衆衛生、政策などの領域で果敢に戦いを挑んだ人である。

生誕の地 Land Farm のある Axminster は、ロンドン (Waterloo 駅) から電車で2時間半の西イングランドのデボン州に位置する小さな街である。街から9キロ北の Membury 村の Land Farm にある生誕の家と庭を訪問し、Wakley の玄孫 (やしやご) となる Susan Sprague さんや93歳で Wakley Family の血筋を引く Stan Wakley 氏の自宅を訪問した。また、Wakley が洗礼を受け通った教会、そして当時と変わらない村を案内してもらった。このガイド役は地元の David Evans 医師がすべてプランしてくれた。Land Farm の生家は、中世に村の集会場 (hall house) として建てられ、17世紀の初期に富裕な農民の個人住宅として再建されたものであった。この家を Wakley ファミリーが手に入れ、1795年に Thomas Wakley が Henry と Mary の11番目の子供として生まれた。Wakley 家は、階級的には地主 (Yeoman : 郷土) であり、家事や農作業のための使用人を同居させていた。17世紀の石が敷かれたままのダイニングルームや、木製の頑丈な部屋の仕切り壁、小ぶりの窓など、ほとんど昔のままであるという。外見の石積みの地味な建物の感じからは想像できない立派な室内であった。

終焉の地はロンドンの Kensal Green Cemetery であり、Catacomb と呼ばれる地下墓地に埋葬されていた。棺収納室59の区画13に Wakley、16に妻の Elizabeth を確認した。墓碑銘を降ろして記載を確認してみた。汚れや腐食などにより、すべての文字を読み取ることは不可能であったが、Elizabeth の銘の、最初の行に「Elizabeth」、2行目に「Thomas Wakley」と読み、彼女のものであることが確認できた。Wakley の墓碑銘は、現在ではすべてを判読するのが難しい。棺の傷みは、Elizabeth の方が進んでおり、外側の木製部分が崩れ、内側の鉛板がむき出しになっていた。Wakley の棺は、鉛部分は見えずしっかりとした様子であった。しかし、訪れる人も無く、清掃もされることなく、時を過ごしてきたものである。Evans 医師の1993年の論文が Lancet(342:1535-6)に発表されるまで、Wakley の墓を確認した人はいなかった。イギリス史における隠れた偉人の一人である。彼の葬式は近親者だけで簡素に行われた。

山崎茂明. Lancet 創刊者 Thomas Wakley への旅 (上). 日本医事新報 2004; 4204:43-47.

山崎茂明. Lancet 創刊者 Thomas Wakley への旅 (下). 日本医事新報 2004; 4205:78-80.